調査・研究活動――二〇〇六年度～二〇〇七年度

平成一九（二〇〇七）年度は、学術フロンティア一件、研究所間プロジェクト一件、研究所プロジェクト一件、科研費を得た研究班プロジェクト一件の計四件の研究資金を獲得したプロジェクトをはじめとして、多数の共同研究計画が展開された。

学術フロンティアは平成一四年度から平成一八年度まで研究計画五年間推進されたものであるが、文部科学省より本年度から三年間の期間延長が認められたものである。その調査・研究活動の詳細な報告は別冊『学術フロンティア報告書―二〇〇七―』を参照されたい。

研究所間プロジェクト「イスラーム世界における伝統的秩序規範の持続と変容」（平成一七～一九年度、代表・後藤武秀研究員）、研究所プロジェクト「境域アジアのトランスナショナル・コミュニティ――地域間比較研究の試みとして――」（平成一九年度）、また科研費を得た研究班プロジェクト「中国内陸部における貧困対策に関する研究――『移民新村』政策を中心にして」の報告は、それぞれ本号に収録している。

【学術フロンティア】

中国における地方選挙の調査及び台湾における講演

期　間　平成一九年三月二四日～三月二八日

研究員　佐藤俊一

調査地　香港・中国・台湾

国際シンポジウム準備作業及び東南アジア法研究動向調査

期　間　平成一九年八月二九日～九月五日

調査地　インドネシア（スマラン）・香港

プロジェクトマネージャー　研究員　後藤武秀

国際シンポジウム準備作業及びインドネシア・イスラーム教育施設調査

インドネシア地域リーダー　客員研究員　西野節男

期　間　平成一九年八月二九日～九月六日

調査地　インドネシア（スマラン）

※上記三件の詳細については本号所収の学術フロンティア報告に所収。

【研究所間プロジェクト】

モルディブにおけるイスラームの伝統的秩序規範の変容調査

期　間　二〇〇七年二月一二～二二日

調査地　モルディブ（マーレ、バンドス島）

研究員　子島進

イスラーム世界における伝統的秩序規範の持続と変容

研究員　後藤武秀

期　間　二〇〇七年四月二九日～五月一日

調査地　中国　アモイ大学・福州大学

カイロ市におけるイスラームの伝統価値規範のフィールド調査

客員研究員　赤堀雅幸

期　間　二〇〇七年七月三一日～八月一七日

調査地　エジプト　カイロ市　スーフィー高等評議会など

※上記3件の詳細については本号所収のプロジェクト報告に所収。

中国扶貧「移民新村」政策研究班

中国陝北・甘粛省地区移民新村研究調査

研究員　阿部照男・横川伸
　　郝仁平・今東博文
客員研究員　針生清人
　　飯塚勝重

期　間　二〇〇七年九月一日～九月一二日

調査地　中国　陝北・甘粛省地区移民新村

※詳細については本号所収の研究班報告に所収。

研究会合報告――二〇〇六年度～二〇〇七年度

研究集会

日　時　二〇〇七年一月二六日（金）　一三時～二〇時三〇分

会　場　白山校舎　二号館一六階　スカイホール中央（第一部）・スカイホール右（第二部）

第一部：研究大集会（一三時～一七時三〇分）

第一ステージ　研究報告

宗教の制度化と権威

――マレーシアの境域社会におけるイスラーム化のダイナミクス

研究員　長津一史

本報告では、マレーシア・サバ州東岸のセンポルナ郡に居住する海サマ（バジャウ）人を事例として、マレーシアにおける「ふつうのムスリム」と国家とのイスラームをめぐる相互作用のダイナミズムについて論じた。具体的には、一九五〇年代半ばに始まる海サマ人のイスラーム化の歴史過程を跡づけ、その過程を国家、地域双方のレベルのイスラームをめぐる社会的文脈に定位して相関的に理解することを試みた。

センポルナ郡はフィリピンと国境を接している。海サマ人はマレーシアとフィリピンの双方に居住している。いずれの国家領域においてもイスラームを受容しているが、フィリピン側ではいまも他の多数派ムスリムから